

SDGs 実施指針及び付表に関する意見

2016年11月11日
慶應義塾大学 蟹江憲史

1. 本文には素晴らしい理念が含まれており、スタート地点として意義あるものといえる。また、付表には新たな施策や施策案も含まれており、その点は大いに評価できるものである。
2. 他方、本文については、理念が具体的施策となっておらず、これでは2030アジェンダの「変革」を体現したものとはいえない。特に、SDGsの横断的实施やそのためのメカニズムが不足している。これらを補足するためには少なくとも以下の点が必要と考える。
 - 取り組みの柱の組み換え
8つの柱は、現状では独立の柱となっており、その意味で前世紀的である。SDGsに対応するためには、様々な目標を融合して考えるきっかけとなる「核」を考える必要がある。この観点から、8つの柱はSDGsの融合性を勘案し、以下のように組み替え、強化することを提案する。
 - 1 ジェンダー平等を前提とするあらゆる人々の活躍の推進と地域活性化
 - 2 国内外における健康・長寿の達成
 - 3 質の高い教育と研究の推進による持続可能な成長市場の創出
 - 4 省・再生可能エネルギーや気候変動対策をふまえた質の高いインフラと強靱な国土の整備
 - 5 生産と消費の変革を通じた地球のための循環型社会の構築
 - 6 森林、海洋等の生物多様性の保全を基盤とした自然と人間の共生社会の実現
 - 7 平和と安全・安心社会の実現
 - 8 SDGs達成へ向けたガバナンス
 - 推進本部は変革を主導すべく、新たな施策や政策手段を提示する司令塔となるべきである。そのためには、以下の点を「推進体制」に含むことが重要である。
 - ◇ SDGsに対応した日本の政策目標・ターゲット・指標の策定あるいは修正
 - ◇ 実施指針に基づく政策の統合実施にかかる政策の策定及び推進。なお政策の統合実施は、①「8つの柱」あるいは「核」にあるような政策領域について、関連施策(付表にあるようなもの)の間のシナジーが生まれたり、施策間の齟齬が生

じないように調整したり、幾つかの政策を合わせて実施するものと、②新たに施策(政策手段)を掲げることで実施するものがありうると考える。①については、後述するタスクフォースのような仕組みがこうした機能を促進すると考えられ、②については、例えば表彰制度や、統合領域に関する民間イニシアティブに補助金を出すような制度構築などがありうると考える。

- SDGs の主流化には、具体的な仕組みが必要である。その意味で、実施指針にある「府省庁ごとの事項や府省庁横断的な分野別の事項についても、SDGs推進円卓会議とも関連させつつ、事項に応じて関係するステークホルダーとの意見交換や連携のための場の設置」は重要なアクションだと考える。こうした、課題に応じたタスクフォースのような仕組みは、指標の設定やフォローアップ・レビュー等の特定の目的を遂行し、報告書をとりまとめるために設置することも考えられる。

こうした観点から SDGs の実施をすることは、日本が SDGs で世界を主導すること、すなわち、2030 年やその先を見据えて日本が継続的に成長し、世界でリーダーシップを発揮するために必要不可欠なことであると考ええる。